

# 自立活動だより

平成28年2月発行①

愛徳分教室は、愛徳医療福祉センター内にある紀北支援学校の分教室です。愛徳分教室には、小学部と中学部があり、どちらにも肢体不自由重複学級があります。また、小学部には肢体不自由普通学級があります。今年度は、小学部に8名、中学部に5名の児童生徒が在籍しています。(平成28年1月8日現在)

2月の自立活動だよりでは、分教室の各学級における自立活動の取組(小集団または個々の課題に応じた学習)の一部を紹介します。

## 【小学部A(普通学級)の取組】

- 自立活動の時間帯：月曜の12:50~13:30
- 該当の児童：小学部3年1名、4年1名  
普通学級の児童2名は、いずれも入院治療の期間、分教室に通学していて、治療完了後は再び居住地の小学校へ戻る(復学)こととなります。地域の学校へ戻るときの不安をできるだけ軽くし、自信を持たせられるものひとつとしてギターを使った活動に取り組んでいます。
- ねらい：ギターの練習を通じて、心理的な安定を図る。(障害による学習上または生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること)また、復学に向けての自信をもたせる。
- 取組内容：1年間の活動を経て、ギターの演奏がかなり上達しました。今年度からは、愛徳祭やクリスマス会など、さまざまな行事等で発表する機会を設けました。発表することが自信につながっています。



### 普段の活動メニュー

- 授業開始の挨拶
- コードの押さえ方
- 課題曲の練習
- 終わりの挨拶

### ねらい

左記の活動をする中で、あいさつの仕方や姿勢、教師との間でわからないことや、感想などのやり取りをすること。児童がお互いに、助言や協力できるようにすること。

## 5 成果

ギターが上達していくことを実感し、いろいろな曲を弾き語りできることが楽しさや自信につながり、日々の入院生活を有意義に過ごすことができています。また、友達や教師等周りの人との関わりをもつ架け橋にもなっています。

## 【小学部B(重複学級)の取組】

小学部Bでは、『REMACⅡ体操』『ブラッシング体操』などのふれあい体操で、教師とのスキンシップを楽しみながら触れ刺激を受け止めたり、体幹や上肢・下肢のストレッチをしたりと、主に「健康の保持」「身体の動き」に関する取組をしています。また、口の体操、呼吸の練習、iPadやセラピーボールを介して自分の要求を伝える「コミュニケーション」に関する取組などを行っています。今回は、「コミュニケーション」に関するaさんの

取組について紹介します。

aさんは、風船ベッドやトランポリンなどの揺れあそびが大好きで、心地よい感触や揺れに満面の笑みを浮かべ、身体も大きく動かして楽しさを表現しています。活動に取り組んだ後に、「もう1回する?」と誘いかけると視線を合わせたり腕を動かしたりして「もう1回」を伝えていました。「もう1回」「もっとやりたい」というaさんの思いを自ら伝えてほしいな、と考え、(教師の指にタッチして「もう1回」を伝える)ことを目標に、自立活動の時間で取り組むことにしました。

○セラピーボール(写真1)でピョンピョンピョン・・・

抱っこ姿勢でセラピーボールに乗り、「ピョンピョンピョ〜ン」のリズミカルな言葉に合わせて揺れあそびを楽しみました。笑顔や手・脚の大きな動きからaさんの「楽しいよ」が伝わってきました。

○「もう1回したい!」・・・

揺れあそびを終えてすぐに「もう1回する?」と言葉かけをすると教師の顔をジッと見つめ、「うんうん、もっと揺れあそびをしたーい」という表情のaさん。そして「もう1回」の言葉とともにaさんの手を後方から介助しながら教師と指を触れ合わせました。セラピーボールでの楽しい揺れあそびと「もう1回」の指への触れ合いの取組を重ねる中で、「もう1回」の言葉に合わせてaさん自ら腕や指を動かし、教師の差し出した指にタッチ!すぐにセラピーボールでの揺れあそびをスタート。触れ合わせた指で、自分の思いをしっかりと伝えていたaさんでした。教師と視線を合わせながらたくさん笑顔もそのかせていました。



写真①

## 【中学部B(重複学級)の取組】

中学部は、「身体の動き」に関わるb君の1年間の取組を紹介します。

b君は、不安定ながらも膝立ちや四つ這い移動を獲得しています。

自立活動では、主に、股関節や膝、足首の緊張を緩めること、肩甲骨周りをほぐすこと、立位台を使って立位姿勢を保持すること、上肢を使ったボール運動やサーキットを行うとともに手指の操作性を高めることに取り組みました。

また、訓練で行っているウォーカーを使っての歩行も、昼食後のわずかな時間ですが日々取組を重ねてきました。

膝立ちを繰り返しながらボールを押し、マットの山を越え、トンネルを四つ這いでくぐる中で身体の柔軟性が見られるようになりました。SRCウォーカー(写真2)を使っての歩行では、行きたい方向がある時は手差しで伝えて移動していました。前屈姿勢と尖足が気になりながらも気持ちに重きをおき取り組んでいましたが、短下肢装具が新しくなるとともにP.C.W(写真3)に変更となり、歩行姿勢もよくなりました。筋力がつき、力の調整もできるようになり、まっすぐしか進めなかったb君が、ウォーカーの前を持ち上げて方向転換し、自分の行きたいところへ行けるようになってきました。座位保持装置も自走用の車椅子タイプのもの(写真4)に変更になると、1ヶ月ほどの間にみるみる操作が上達し、これまでも増して自由に移動できる範囲を広げています。「思い」があればこそ、身体との相乗効果を生んでいると思います。



写真②



写真③



写真④